

## 山形鉄道の近況報告

## 1 平成28年度事業経過

- 「鉄道事業再構築実施計画」が平成28年11月に国土交通省から認可され、上下分離方式による実質的な運営をスタートした。
- 計画を前提として、県及び沿線2市2町(長井・南陽・川西・白鷹)が平成28～32年度迄、毎年度84,000千円の財政支援を行うこととしている。
- 国の地方創生加速化交付金を活用し、「花」をテーマとしたラッピング列車や食堂列車の運行、PR強化や旅行商品の造成などに取り組んだ。

## 2 平成28年度の経営実績

## (1) 運行(上)に係る収支の状況

当期利益は15,894千円となり、20年ぶりの黒字となった。

項目	金額(千円)
収入	189,071
支出	169,790
当期収益(税引前)	19,281
法人税等	3,387
<b>当期利益(税引後)</b>	<b>15,894</b>

## 【参考】施設(下)への財政支援スキーム

(H28～32の単年度平均ベース) (単位:千円)

	県	長井市	南陽市	白鷹町	川西町	計
負担額	27,972	22,428	16,212	13,440	3,948	84,000
負担割合	33.3%	26.7%	19.3%	16.0%	4.7%	100%

## (2) 利用者数の状況

- 利用者数は計58.6万人で、その7割超が通学定期(42.5万人)であり、沿線高校(長井・長井工・南陽・荒砥等)に通う学生の重要な足となっている。
- その他、定期外利用が13.6万人(23%)、通勤定期が2.5万人(4%)である。

(単位:人)

	平成27年度(A)	平成28年度(B)	増減	比率
			B-A	B/A
通学定期	425,760	424,980	△780	99.8%
通勤定期	26,160	25,020	△1,140	95.6%
定期外	145,135	135,898	△9,237	93.6%
合計	597,055	585,898	△11,157	98.1%

## 3 平成29年度の取組み状況

- 上半期の旅行代理店経由の団体利用者が前年比約1.7倍と好調に推移
- 東北中央道(福島～米沢間)開通を踏まえ、交流人口拡大の機会を捉えた観光商品の企画や「やまがた冬のあった回廊キャンペーン」との連携
- 車内広告、グッズ販売、ふるさと納税返礼品など多方面での収入確保
- 会社設立30周年(H30年度)を踏まえ、機運醸成と利用拡大の企画を検討中